

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 田村市立船引中学校 】

1 実践テーマ	①・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ
2 実施対象者 (学年・人数)	対象学年：1学年4クラス122人 2学年5クラス145人 3学年5クラス147人 計414人
	(1) 学校における活動 ①教科名 ( 保健体育科 ) ②行事名 ( ) ③その他 ( 総合的な学習の時間 ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	目標 (ねらい) ・オリンピックやパラリンピックの講演を通して、その生き方や考え方に触れ、国際社会に貢献し、福島、そして日本のさらなる発展を目指す態度を育てる。 ・ボッチャを体験することにより、障がい者の活動についての理解を深め、支え合う心をはぐくむバリアフリー精神の意義について学ぶ。
5 取組内容	I アンケートの実施 ○事前と事後にアンケートを実施し、生徒たちの心の変容を確かめ、オリンピックやパラリンピックへの興味・関心やバリアフリー精神の構築の大切さを確認した。 II オリンピック・パラリンピック選手の講演会 1 陸上競技選手を迎えての講演会 ○為末 大氏を迎え、「ハードルを越えて」の演題で講演会を実施した。講演会では、自分の夢を人に伝えることで、自分を応援してくれる人が増える。その結果、夢の実現に近づくことや自己アピールの大切さを学んだ。



## 2 柔道競技選手を迎えての講演会

○リオデジャネイロ金メダリスト大野将平選手を迎え、「自信から確信へ」の演題で講演会を実施した。講演会では、自分の願いを叶えるためにも、「一日一善」の精神を大切にしたり、目標に対して、執念をもって行動したりすること、我慢することを大切に生きてきたことなどの体験談を聞き、メダリストになるまでの精神面での苦労や栄光をつかむまでの大変さを学んだ。



## 3 陸上競技選手を迎えての講演会

○女子400m（視覚障害T13クラス）で東京パラリンピック選手に内定している東邦銀行所属の佐々木真菜選手を迎え、「私が挑戦し続ける理由」の演題で講演会を実施した。講演会では、自分のもつ障がいを取り上げ、日常生活における心構えとして、「できないから嫌いではなく、できないからこそやってみよう」という姿勢が大切であることや挑戦することで人は変わることを学んだ。



## 4 ボッチャ体験学習

○3年生の体育理論の時間にある「人々を結びつけるスポーツの文化的働き」の授業を通して、スポーツは、障がいの有無を越えて人々が結びつくことを学ぶとともにボッチャ体験活動を通して、パラリンピック種目に親しんだ。

<p>6 主な成果</p>	<p>I 講演会から学んだこと。</p> <p>1 生徒アンケートの感想から  ○オリンピックの体験談を通して、オリンピックに参加できる人は、特別な人ではなく、高い目的意識をもち、こつこつとひたむきに努力したり、活動することで、自分を奮い立たせる術を身に付けることが大切であることを学ぶことができた。  ○自分のもつ障がいと正しく向き合うことで、その障がいを味方にして、成長しようとする考え方は、大変素晴らしいことだと感じた。</p> <p>2 講演会を実施して  ○3名のオリンピック、パラリンピアン講演会を実施することで、オリンピック、パラリンピックへの関心が高まり、学校生活や部活動への取り組み意識が今まで以上に高まった。  ○保健体育の授業で行う体育理論では、オリンピック、パラリンピックの歴史や文化的意義などに興味を示し、今まで以上に学習意欲が高まった。</p> <p>3 ボッチャ体験活動を通して  ○ボッチャの体験授業では、ルールやマナーを学ぶだけでなく、視界の悪いめがねなどを利用し、模擬体験を行う活動を実施し、障がい者の視点に立った活動を行い、互いに支え合うことの大切さを体験した。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>学校教育全体を見通した中で、今回のオリンピック、パラリンピック事業との関連をどう位置づけるかを重視して計画した。また、3名のオリンピック、パラリンピアン講演会をバランスよく実施することで、考え方をじっくりと共有し、自分のこととしてとらえられるように配置した。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>I 今後の事業継続について  ○東京オリンピック、パラリンピックの理念を踏まえ、実施年度後も無理なく、継続していけるように教育課程の適切な時期に位置づけたい。  ○大会までの期間、選手をどのように応援するかを考えさせ、計画的な実践活動が図れるよう検討していきたい。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>I 今後の取組について  ○年度末の教育課程編成時に、今後の取り組み方を提案し、各教科、領域などとの関わり方を検討していきたい。また、特別支援学校と連携が図れるような実施計画を立てて、学んだ成果が実践できる環境を整備していきたい。</p>